



博士課程進学 **の** メリット・デメリット

編集にあたって 五十嵐悠紀(明治大学)

本特集は、「博士課程」に焦点を当てて、大学学部生、修士学生のみならず、現役博士課程学生や企業に勤めている人、博士課程進学に悩んでいる学生を持つ先生方、などを想定読者として企画しました。近年、博士号取得までの道のりはとても多様なキャリアパスになっています。文部科学省でも、若手博士研究員の多様なキャリアを支援することについて議論されています^{☆1}。

博士課程に進むかどうかを検討するときに、研究室に博士課程進学者が多いと、博士課程進学を身近なものとして考えられることでしょうか。また、社会人博士が多い企業に勤める人は、社会人博士の生活を身近に目にするので、検討することも比較的容易かもしれません。一方で、そうではない人にとっ

ては、博士課程というのは、未知の世界ともいえます。

そこで本特集では、大学院進学、博士課程、博士号取得をテーマに、メリット・デメリットについて19名の方に執筆していただきました。執筆者には、多様なキャリアパスがあることが読者に伝わるよう、修士課程から博士課程に進学した方、社会人博士として入学した方、会社を辞めて学生に戻った方、など、幅広く執筆依頼をさせていただきました。また、就職先も、アカデミア(大学および研究所)や企業のバランスを考え、男女比も考慮しました。さらに、お茶の水女子大学の伊藤先生にはご自身の振り返りとともに、教員の立場からの博士課程進学について、そして早稲田大学の小林哲則先生には、リーディング

^{☆1} http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryu/attach/1314731.htm



グ大学院という文科省の学生支援プログラムについてもご執筆いただきました。明治大学中村聡史先生にはそもそも大学院前期課程に進むことの意義についてもご執筆いただきました。

2015年4月の特集「私の大学時代—新世界に踏み出す皆さんへ—」(Vol.56 No.4 通巻 601号)を覚えていらっしゃるでしょうか。この特集の読者のみなさまからの反響が良かったことから、本特集を組むにあたって、参考にさせていただきました。また、執筆者には博士課程当時のお写真も可能な限り添えていただきました。

執筆いただいた記事からは、博士課程におけるメリットとして博士課程時代に培った人脈やスキル習得を挙げる方が多く、デメリットとしては金銭面や年月がかかること、などを挙げる方が多かったように思います。ともすれば、プライベートな側面も多く、書きづらいこともあると推測される博士課程について、率直な経験談をご執筆いただいております。博士課程進学、博士号取得について、悩んでいる方や

その周囲の方々にとって、本特集がロールモデル探しの一助になると幸いです。

最後に、本会音楽情報科学研究会では、音楽情報分野で学位を取得した若手研究者に研究内容だけでなく、博士課程進学の動機、戦略、挫折、転機などを熱く語っていただくといったセッション“新博士パネルディスカッション「新博士さんいらっしゃい！」”が2～3年に一度開催されています。その様子が、本会研究報告 (Vol.2014-MUS-104 No.12, Vol.2016-MUS-112 No.10) にも掲載されておりますので、本特集と併せてご覧いただければ幸いです。

参考文献

- 1) “新博士によるパネルディスカッションV「新博士さんいらっしゃい！」”, 情報処理学会研究報告, Vol.2014-MUS-104 No.12.
- 2) “新博士によるパネルディスカッションV「新博士さんいらっしゃい！」”, 情報処理学会研究報告, Vol.2016-MUS-112 No.10.

(2017年2月19日)